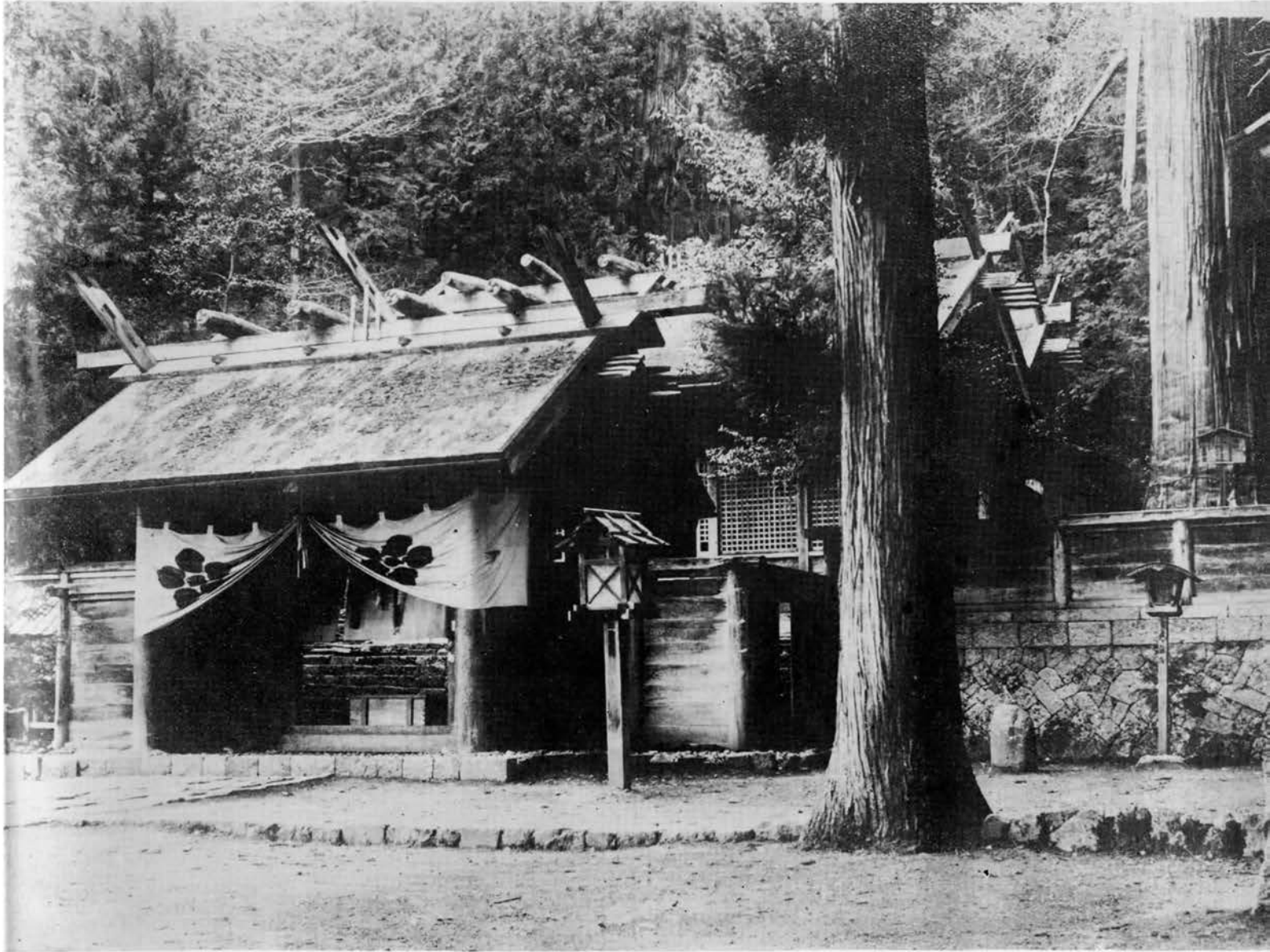


毎月1回20日発行

(昭和31年3月28日第三種郵便物認可)

# やま博物館

編集責任者 大町山岳博物館



## 宮本神明宮(国宝)

うっ蒼と茂る杉並木、ここ、宮本神明山の南麓に位する御社。簡素清純な美しい直線構成の現存最古の神明造。めまぐるしい現代社会の流れから忘れ去られた片田舎に今日もおごそかに鎮まっています。千古の歴史をひめ、繰りひろげられる様々な人間像を映して。

NO. 10 1956年10月20日

大町山岳博物館後援会 発行

## 郷土の文化財をたずねて

文部省や県では、我が国にとって芸術上、学問上特に価値の高いものを、国宝、重要文化財、史跡、名勝、天然記念物などの名前で特別に保護を加えてきました。これらは特に我が国で貴重なるものに限定されているので、まだ地方にはその地方として価値ある文化財がたくさん残されています。この地方の文化財を保護しようという動きが最近各地におこってきました。この機にこの地方にどんな文化財が残され保存されてきたかこれから見てゆきたいと思えます

### 特色ある仁科氏文化

大町市を一因とする地方は古くから「仁科の里」と呼ばれ、我が国を藤原氏が支配していた平安時代の中頃から仁科の御厨（伊勢神宮の領地ということ）として、豪族仁科氏によって治められていました。この事は治承3年（1179年）仁科盛家によって作られた、八坂村の藤尾観音堂の国宝、千手観音の像の中の木札の文によって明らかになっています。

仁科氏は戦国時代中期まで勳皇の土としてよく朝廷に仕え、当時華やかだった京都の文化を仁科の里に移入し、独特の仁科氏文化を数多く残しました。この頃建てられた大町市市区宮本にある**国宝神明宮の本殿中門**は、地方にある神明造りの最古のものとして大切に保存されています。20年に一度ずつ遷宮（お宮の造りかえ）が行われたことが、永和2年（1736年）からの**棟札**で知られ、そのうち27枚が重要文化財になっています。そこには又弘安元年（1278年）の古い懸佛が16面も保存され重要美術品として特色のあるものとされています。お宮の横には天然記念物として直径3メートルもある大きな杉の木があります。流鏝馬で有名な大町市内北部の**王子神社**は、南北朝の頃南草について活躍した仁科盛遠が熊野神社から移したものであるといわれています。春日造りで承応3年（1654年）に作りかえられたものが今日に残り、地方色ある重要なものとなっています。又市区曾根原にある**盛蓮寺観音堂**も、文化財とされ、その昔仁科氏の祈願寺となっています。これらの現存する建築文化財はみな金原周防の手によるものです。



藤尾千手観音（重要文化財）体内に木札白銅鏡摺仏が納入



神明宮大杉（天然記念物）宮本神明宮の拝殿の東側に接して大杉があり、御神木と呼ばれています。高さ約55米で目通りの周囲は9.21米ほど、樹齢は1000年以上と推定されています。この外境内の入口の並木樹がゆう合した三本杉も天然記念物に指定されています。



盛蓮寺観音堂（重要文化財）もとは現在地より北の山寺というところにあつたものが、戦国時代に現在の場所に移されたといわれています。



王子神社（重要文化財）左奥に見えるのが本殿で重要文化財に指定されています。屋根は優美な春日造、こまかい彫刻がほどこされ、正面の赤鬼の面が奇異にうつります。

### 遺構の残る多くの城跡

仁科氏は始め社區の館の内に館を構えていました。そして城を社區潤田に城の峰城、丹生子に丹生子城、木舟に南城、北城と急峻な山の頂に山城をたてました。そこは今は荒れはててすゝきが背丈ものびていますが、その跡を見ることができます。安曇平を一眺できる天然の要害です。又今の大町市のらんかんの上に松崎城をたて、大町公園の下の今の薬師堂の所に玉館城を作って北方の敵に備え、こゝで仁科の里を治めていました。大町市附近はその頃耕地として盛んに開墾されたものです。その頃の城主、仁科盛弘は木曾義仲の軍に加わり京都に攻め上り、平氏を追い落しましたが、源義経に破れた記録が、源平盛衰記などでうかがわれます。

南北朝の頃、仁科氏は大町市の今の天正寺の所に館を移しました。その北側の堀は今なお昔の影をとどめています。その周囲には北原城、南原城や六日町の太念寺跡や、九日町の妙喜庵跡に城が配置されていましたが、今は田や畑や人家の建った所となっていました。又平区の木崎湖のほりにも森城がたてられ、その大きさが遺構でははっきり見ることができるときです。これらの城跡、居館跡はすべて長野県で史跡に指定されています。

この南北朝の終り頃、仁科の御厨も他の領家の手にうつりかわり仁科庄として、仁科氏は北安曇郡はもちろん、南安曇郡に至る広い地域を支配しました。その仁科氏も戦国時代の天文23年（1554年）仁科盛政の時伊那の高遠で武田信玄に滅されました。そして仁科の里にも武田勢が攻め込み、ついにこの地の仁科氏統治は終ることになりました。

先住民族を語る細形銅銭

仁科氏をはなれた重要文化財もあります。社區木舟に発見された鉄製鋸口は安貞2年（1227年）の銘が入り

我が国最古のものとして有名です。時代をさかのぼってこの地方に縄文時代、弥生時代の頃の遺蹟が多く安曇族の入る前と考えられる人々の様子がうかがわれます。平区海の口に発見された細形銅銭は、弥生時代に西日本文化の入って来ていた事を物語る貴重なものです。

### 自然がつくった文化財

我が世の春とその隆盛を誇った人々の生活も、悠久の歴史に一粒のうたかたと消えて、再び新しいうたかたが生まれて来ます。郷土に残された栄枯盛衰の足跡は、今日も夕日に照り映えた北アルプスのおおらかな山容に包まれて静かに暮れようとしています。

ふるさとの人々の綾なした生活の歴史の背後には永遠の生命をもった美しい自然があるのです。その人々の生活の中に遺された数々の文化財と同じ様に彼らの造った数多くの文化財があります。即ち名勝、天然記念物等であり名勝はすぐれた風景美として風致景観の優秀なものや名所的学術的価値の高いものがあげられる。ホ

ツサマグナの構造線に沿って出来た仁科三海は県指定の名勝として、幽玄な湖面に緑の影を映し、湖水中にはヒメミズナラ、淡水海綿など珍奇な生物を産しています。天然記念物は動物、植物、地質、鉱物などが自然に産出する状態の代表的な標本を指しています。学校の標本室や博物館、植物園などに陳列したり栽培したりする事の出来ない様な天然の状態にあるものをいいます。例えば社區宮本の神明宮の大杉のように、人が伐ったり風で倒されたりしないで自然の恵まれた条件のもとではすくすく成長します。中綱湖畔水神社にある暮嶽県指定は、直径2メートル以上もあって原生林の遺木として、貴重なものです。

この他高瀬入の湯股の地獄谷にある噴湯丘と球状方灰石、或は爺ヶ岳の奇形水晶（県指定）、動物では高山帯に生活しているカモシカ、ライチョウ、ヤマイトチ（県指定）、高山蝶のクモマツマキチョウ、クモマベニヒカゲなど（県指定）があげられます。

この他高瀬入の湯股の地獄谷にある噴湯丘と球状方灰石、或は爺ヶ岳の奇形水晶（県指定）、動物では高山帯に生活しているカモシカ、ライチョウ、ヤマイトチ（県指定）、高山蝶のクモマツマキチョウ、クモマベニヒカゲなど（県指定）があげられます。



湯股噴泉丘（天然記念物）高瀬溪谷の上流湯股地獄谷にあり大きなものは2メートル以上の高さになります



水神社の春にれ（県天然記念物）中綱湖西岸の水神社境内にある御神木

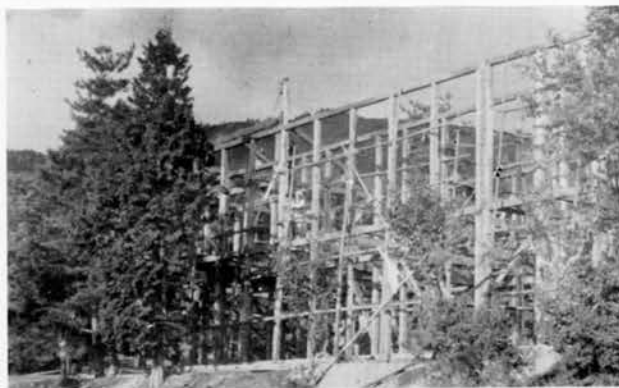


仁科三湖（県名勝）青木・木崎・中綱の三湖を総称して仁科三湖と呼んでいます。大正5年信濃鉄道開通と糸魚川街道の自動車使用で人々に知られてきました。写真は青木湖畔から白馬を望んだものです



【動物園だより】 澄みきった秋空の小春日和、今日も博物館の庭は遠足の生徒で賑わっている。今年の春はまだ赤ちゃんだった動物も、もう腕白ざかり。あばれん坊はお猿の「もんちゃん」。首輪についた鎖を片手で握ってぶらんこしては木の枝によじのぼって腰をおろす。彼女は強いもの、前では恭順をよそおっているが相手が弱いとみるや、口をとがらせて真赤になって威嚇にかゝる。利口なのは鳥の「くろちゃん」。彼の生れは小谷の山奥だが人まねが実に上手で、人が近づくと「あほー、あほー」とはっきり申す。最近では「ばか、ばか」と云うのがお得意、「かあ、かあ」と鳴くのは既に忘れてしまっている。それにしても人の子と同じ様にあまり良い事は覚えない。

静かでおとなしいのはかもしかの「岳子さん」。丸々太って伸びきった角を飼育舎の柱で磨きあげている。食いしん坊の兄弟は子熊の「太郎」と「花子」。餌も見せようものなら大騒ぎ、しかし油断は出来ない。彼等も日本で唯一の猛獣の子供、まだ伸びてもいない牙と爪をたてることをちゃんと知っている。【写真は成長したカモシカ「岳子。」】



**博物館の完成は11月下旬**

10月中旬完工予定の博物館新館は、天候不順のため工事が遅れ、11月下旬まで工事期間が延長された。本館では12月から順次資料の移転をはじめ来春4月から正式に開館する方針をとっている。動物園もそれまでに全施設を移転する(写真は工事中の博物館新館)

**山岳会**

設立は昭和20年部員数31名。機関紙「ふみあと」を発行し毎年集団登山を行っている。図案は塚本潤治氏。

昭和電工大町工場 山岳部



**博物館後援会員募集**

博物館後援会の会員を募集しています。年額千円を納める団体ならびに、年額三百円以上を納める個人を正会員といたします。会員には次のような特典があります。

- 1、博物館の諸指導行事を通知し参加の便をはかる。
- 2、毎月「やまと博物館」を配布する。
- 3、団体には講師、指導者派遣の求めに応じる。
- 4、博物館に支障のない限り、博物館の資料(標本、図書、写真、図版等)器具の借出しをあっせんする。
- 5、その他博物館で種名同定、研究指導など諸種の便宜をうけるあっせんをする。
- 6、いつでも博物館を無料で観覧できる。

【博物館だより】 9月23日日本アルプス撮影隊の合同会議  
 24日居谷里調査(植物) 25日北アの動物たち録音(NHK)  
 26日第7回山の歌声 28日大町市文化財調査委員会(会議室)  
 29日博物館建設推進委員会 仁科三湖採水作業 30日映画会(こども会)  
 10月1日居谷里調査(気象) カモ24時間観察 2日博物館公民館合同委員会 3日市内文化財調査 4日居谷里調査(植物)  
 7日~10日居谷里調査(動物、地質) 12日新館上棟式 14日東映教育映画撮影打合 16日カモ24時間観察 第1次雨量計撤収作業  
 17日~20日市内文化財調査 18日文化祭展示計画打合会  
 (今月の寄贈) シギ一種1体 大町市大新田町 渡辺、セグロセキレイ1体 大町市八日町 丸山武治、常盤泉 降旗照美、メボソムシクイ1体 大町市九日町 高場貞雄、ビツケル1点 大町市常盤泉 北沢武男、昭和初期のスキー 大町市東町 桑原泰始郎、起火の台石 大町市社丹生子 永田愛辰、タシギ1体 平区海ノ口 郷津繁雄、マムシ1点 社松崎 松倉登、カナヘビ1体 大町市昭電第二社宅 村田高志。

おしらせ 本紙の購読を御希望の方には実費 1部10円でおわけします。但し遠方の方は郵送料の実費をいただきます 大町山岳博物館後援会

**大町市文化祭開く**

昭和31年度大町市総合文化祭は11月1日から5日迄大町市公民館、本館共催で全市民的な行事として華々しく開催される。今年度は市民レクリエーションを主眼に市の総合文化祭として郷土文化の向上に資する意味で、多くの期待が寄せられている。こゝに市文化祭のあらましを紹介しよう。

- 第一会場 大町市公民館 菊花展、美術・写真展、公営結婚式場公開、図鑑、生花展、大町・松本・糸魚川三市みやげ品展。
- 第二会場 大町山岳博物館 市内文化財展、山の生活展、居谷里展、全国山岳会バツジ展、資料室公開。
- 第三会場 大町劇場 映画「夕日と拳銃」、歌舞伎、演劇。

**雨量計は撤収**

本年5月から奥黒部一帯に設置され、山岳雨量の記録を続けて来た関電の自記雨量計は、本館他関係者の手によって撤収されている。現在第二次撤収作業(信州側の11台)が行われている。

編集後記 本号は郷土の文化財として先人が遺した文化的遺産を眺めてみることにした。こゝに挙げられた文化財は国法或は県条例によって指定されたものゝ一部である。まだまだ我々の視野から見逃すことの出来ない重要な文化財が数多く存在している。▲近年文化財に対する認識が高まり、その保護保存の動きが見られて来たのは喜びに堪えない。来年は大町市でも文化財保護条例と風致地域条例がつけられる。▲恒例の文化祭には教育委員会と本館の共催で市内文化財展が開かれる。▲我々はこゝで祖先がすばらしい文化財を遺した事実について大きな喜びを感じると共に、その保護保存の必要性を再確認したいと思う。

やまと博物館 No.10 1956.10.20発行  
 編集 発行人 大町山岳博物館  
 発行 所 大町山岳博物館後援会  
 印刷 所 長野県大町市神楽町電話211番 信州印刷株式会社